

馬込文士村演劇祭2024

～ものがたりの世界を楽しもう～

演劇で“ものがたり”の世界を体験してみませんか？

誰もが一度は触れたことがある児童文学作品を演劇にしてお届けします！

演劇上演 劇団 山の手事情社

『ガリバー
旅行記』原作 ジョナサン・スウィフト
翻訳 吉田甲子太郎『ヘンゼルと
グレーテル』グリム童話
翻訳 村岡花子

1つの公演で、ワークショップと記載の2作品を上演します。全公演同じ内容です。

2024年

10月5日(土)

13:30開演

13:00開場

17:30開演

17:00開場

10月6日(日)

13:30開演

13:00開場

●会場 山王ヒルズホール

(大田区山王2-12-13 日本芸術専門学校B1F)

●料金

全席自由／各回 大人———¥2,500
 中学生以下———¥1,000
 ※未就学児入場不可

●チケット発売日

・オンライン先行限定発売———8月16日(金)12:00～
 ・一般発売(電話・オンライン)———8月20日(火)10:00～
 ・窓口発売———8月21日(水)10:00～

●オンラインチケット(24時間購入可)

<https://www.ota-bunka.or.jp/>

※手数料がかかります。 ※公演前日19:00までご予約いただけます。
 ※オンライン先行分が一般発売前に予定枚数を終了した場合も、一般
 発売にてオンライン販売いたします。



●専用電話 03-3750-1555 (10:00-19:00)

●窓口

下記3館にて販売いたします。(10:00-19:00)

・大田文化の森(大田区中央2-10-1)
 ・大田区民ホール・アプリコ(大田区蒲田5-37-3)
 ・大田区民プラザ(大田区下丸子3-1-3)

【主催】公益財団法人 大田区文化振興協会

f magomebunshi ENGEKI x ota_bunka otabunka
 大田区文化振興協会 大田区文化振興協会

【共催】大田区 【後援】特定非営利活動法人 大田まちづくり芸術支援協会(asca)

【アートディレクター】安田雅弘(劇団 山の手事情社 主宰・演出家)

【協力】劇団 山の手事情社、一般社団法人 大田観光協会、特定非営利活動法人 馬込文士村継承会、
 特定非営利活動法人 大森まちづくりカフェ、馬込文士村ガイドの会、日本芸術専門学校

【イラスト】光嶋フーパイ 【デザイン】明里笑店LLC.

現在の大田区大森一帯の地域は、大正末期から昭和にかけて、近代文学を代表する名だたる文士達が集まり一時期を過ごしたことから、後に「馬込文士村」と呼ばれるようになりました。

2019年、彼らの残した作品を舞台芸術と組み合わせて紹介する企画をスタート。昨年まで、映像演劇で作品を紹介する『馬込文士村 空想演劇祭』を開催しました。

今年は“空想”から“ものがたり”へ。舞台から生でお届けする企画として生まれ変わります！

今回は、外国作品の翻訳を数多く手掛けた二人の作家にスポットをあて、いつの時代も老若男女に愛されている名作児童文学2作品を演劇で紹介します。

作品観劇前には、リラックスして鑑賞できるよう、お芝居をもっと楽しむためのワークショップも行います。もちろん見るだけでもかまいません。希望者には、舞台で俳優と一緒に身体を動かすこともできます。

大人も子どもも、大森で一緒に“文学”×“演劇”を楽しみましょう！

■上演作品 ワークショップと次の2作品を上演します。全公演同じ内容です。

『ガリバー旅行記』 劇団 山の手事情社

(原作: ジョナサン・スウィフト、翻訳: 吉田甲子太郎)

構成・演出: 川村 岳

出演: 安部みはる 谷 洋介 名越未央 渡辺可奈子 宮崎圭祐

医者ガリバーが、外国への憧れから航海に出て、様々な国へ旅する物語です。全4篇ですが、今回は1つ目の旅「リリパット国」へ漂着したお話をお届けします。この国の人々は全員小人で、巨人のようなガリバーに驚き、縄で縛りあげてしまいます。

『ヘンゼルとグレーテル』 劇団 山の手事情社

(「グリム童話集」より、翻訳: 村岡花子)

構成・演出: 小笠原くみこ

出演: 山口笑美 越谷真美 高島領也 喜多京香 鍵山大和

ある森に、貧しい木こりの夫婦と、ヘンゼルとグレーテルというこどもが暮らしていました。ある時、飢饉で食べ物がなくなり、夫婦はこどもたちを森に捨てる決意をします。家に帰ることができなくなった二人の兄妹は、お菓子の家を発見して喜びますが…。

■翻訳者紹介

吉田甲子太郎 (よしだ きねたろう 児童文学者・翻訳家) 1894-1957

群馬県生。児童文学の翻訳を主な仕事としていたが、自らも創作をはじめ、『源太の冒険』、『兄弟いとこものがたり』などを出版。山本有三と親交があり、昭和7年から明治大学教授をつとめた。

[大田区在住期間] 大正10年(1921)前後 / 27歳ごろ～昭和32年(1957) / 63歳ごろ

村岡花子 (むらおか はなこ 翻訳家・童話作家・評論家) 1893-1968

山梨県生。東洋英和女学校に入學後、大正2年に同校高等科を卒業。21歳の時に山梨英和女学校の英語教師となる。結婚後、大森の新井宿に移住。46歳の時に同僚のカナダ人から『アン・オブ・グリーンゲイブルズ』をもらい、戦時中に翻訳する。59歳の時に『赤毛のアン』のタイトルで出版した。

[大田区在住期間] 大正9年(1920) / 25歳～昭和43年(1968) / 75歳

OTA アート・プロジェクト

“アートでまちづくり”をテーマに大田区に点在するさまざまな文化芸術に関わるヒト・モノ・コトを資源として紹介し、未来に向けて新たに共創していくための創造プロジェクトです。

■出演プロフィール

劇団 山の手事情社

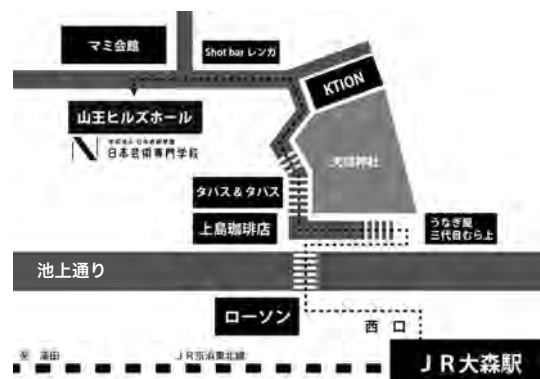
1984年、早稲田大学演劇研究会を母体に結成。以来、一貫して「演劇にしかできないこと」を追求する、実験的な作劇を展開。1993年・1994年には“下丸子[演劇]ふえすた”に参加し、現代演劇を代表する舞台芸術集団として発展。1997年から現代人を制約された動きで表現する《四畳半》という演技様式に取り組み、近年海外での公演も多い。

2013年に専用の稽古場及び事務所を大田区に移転。地域との連携も積極的実施。代表作は、『テンペスト』『タイタス・アンドロニカス』『オイディプス王』『道成寺』『傾城反魂香』など。

[お問合せ] 公益財団法人大田区文化振興協会 文化芸術振興課
(10:00-17:00 ※土日祝を除く)

TEL:03-3750-1614 / FAX:03-3750-1150

■会場アクセスマップ



山王ヒルズホール

〒143-0023 東京都大田区山王2-12-13 日本芸術専門学校地下1階
〈交通アクセス〉JR京浜東北線「大森駅」西口から徒歩3分